

## 平成29年度 第1回 安曇野市総合教育会議 会議録

日 時 平成29年7月25日（火）午後2時00分から午後4時00分

場 所 安曇野市役所3階 会議室301

### ○出席者

市 長	宮澤 宗弘		
教育長	橋渡 勝也	教育長職務代理者	唐木 博夫
教育委員	須澤 真広	教育委員	横内 理恵子
教育委員	二村 美智子		

### ○補助のため出席する者

教育部長	山田 宰久		
学校教育課長	鎌崎 孝善	生涯学習課長	蓮井 昭夫
文化課長	那須野 雅好	図書館交流課長	丸山 高人
学校教育課学校給食センター長	曾根原 正之		
学校教育課学校教育係長	藤澤 一渡		
学校教育課教育指導室長	中村 真市		
学校教育課教育指導主事	一色 保典		

### ○事務局出席者

学校教育課長補佐兼教育総務係長	平林 洋一
学校教育課教育総務係	岩原 遼子

### ○傍聴者

報道機関	2名	傍聴人	1名
------	----	-----	----

## ◎開 会

**教育部長** それでは、定刻となりましたので、ただいまから平成29年度第1回総合教育会議を開会いたします。

私は、教育部長の山田でございますが、本日の進行を務めさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

なお、本日の総合教育会議は公開として行いますので、よろしく願いいたします。

---

## ◎市長挨拶

**教育部長** それでは、最初に宮澤市長からご挨拶をお願いいたします。

**市長** それでは、着座にて失礼させていただきます。

どうも、こんにちは。

それぞれ、お忙しいところを教育委員の先生方にはご参集賜り、ありがとうございます。また、35度を超す暑い日が続いておりましたけれども、ここ2日ほど雨降りということで大分気候も和らいでまいりましたが、まだまだこれから猛暑が続くと思いますので健康には十分ご留意いただいて、ご活躍を賜りたいと思います。

先ほど、部長のほうからございましたように本年度第1回目となります安曇野市総合教育会議を開催させていただいたところでございます。平素は、それぞれのお立場で本市の教育行政はもとより市政全般に対してご尽力賜っておりますこと、改めて厚く感謝申し上げたいと思います。

また、この総合教育会議、改正地方教育行政法の施行によりまして平成27年度に設置をさせていただき、年2回開催をいただいているところでございます。年2回でいいのかどうか、それぞれ議論があるところだと思っておりますが、教育行政の抱える諸課題、諸問題について、委員会の皆さんと行政が問題意識を共有しながら解決にあたっていきたいというように考えております。

昨年12月13日に開催させていただいた総合教育会議では、ICT教育の推進を取り上げさせていただいたところでございます。過日、県教委と市町村代表、それぞれの皆さん方が集まっている議論されたということで、このICT教育についてはいろいろ議論があるというようなことでございます。長野市あたりからは、もう書くということがなくなっ

ってきているのではないか。これをどのように生かしていくかというのがこれからの教育現場に求められている課題だ。しかし、時代の流れの中でICT教育はもう教育の中にしっかり取り込んでいかざるを得ない。後ほど、またございますが、電子黒板の導入等もございます。そして、非常に対話が少なくなってきた。また、文字を書くということが薄らいできている。ある面では昔の教育というか、文化というか、そういうものが薄らいでくる一方、ICT教育は推進していかなければいけない。この辺をどういうふう調整を図っていくかということも大きな現場の課題ではないかと私はとらえております。

県教委も市町村教委と、あるいは関係する皆さんといろいろこれからの信州教育のあり方について、忌憚のない意見交換の場を設けたいというようなことを言っておりますのでこういった点についても、また県教委に安曇野市教育委員会として具体的に提言できるようなことがあれば、積極的に提言をしていくような体制を整えていかなければいけないというふうに私は考えております。

安曇野市も財政状況が極めて厳しい状況であります。かつては、右肩上がりの経済状況でありましたし、また人口も一定程度は維持できた。安曇野市も10万人都市を目指していたのですが、ソニー等の撤退によって9万8,000人を割るような事態、そして高齢化率も30%を超える、と。こんな事態になって少子化の時代、そして人口減少時代、かつて経験したことのないような時代の変化にどう対応していくかということがまた大きな課題であります。

市としても、健康長寿のまちづくりを進めているところでございますが、子どもころから体力をつけていただいて、そして精神力も養っていただきたい。その意味からも日本一の、あるいは長野県一の教育を目指してほしいということは、常々お願いをしてきているところでございます。

これから、合併特例債が切れる平成32年度以降は一定のピークは平成33年に迎えると思いますが、ハード事業からソフト事業へ移行していかなければいけない時代でありますし、また財政状況が非常に厳しい中で歳入に見合った歳出をどのように予算化していくかということでもあります。具体的に各家庭で30万円の収入があるのを35万円使っていたのでは、当然赤字財政が続くということになります。従って、歳入に見合った歳出、そして事業・事務執行内容の見直しをしっかりとしていく必要があるかと思っておりますので、教育はなかなかコスト換算ができない、教育は百年の計と言われておりますから人材育成ということが大きな課題ではありますが、いずれにしてもそれぞれ無駄を排して効果が上がるような教育内容にしていく必要があるかと思っております。

そんな中で、大変厳しい財政状況ではありましたが、情報化社会において学校現場の要求等もございまして子どもたちの学習意欲の向上、また思考力、判断力を養成していかなければいけないという見地から今年度は中学校の全普通教室に電子黒板を導入させていただくことになりました。また、あわせてそのモニターを使いながら学校テレビ放送の受信ができるようにということで現在学校教育課に具体的な方策、受信ができるような施策について取り組みをしてほしいということをお願いをしております。この件につきましては、後ほど事務局から詳しく報告をさせていただくこととなります。

新聞報道等を見まして校長先生からのお話等もお聞きすると、今の先生方はいろいろな対応に追われて非常に忙しいというようなことが盛んに言われております。特に、部活動の指導ということで土日の出勤がある、あるいは授業の準備など、早朝から深夜まで長時間の勤務になっているといったお話もお伺いしております。

こういった中、本日は先生方がこれから未来を担う社会の宝と言われている子どもたちと向き合う時間を何とか充実させてほしいという思いから市や地域がどのような形態で部活動への支援、協力ができるかについて、いろいろな方面から意見交換をさせていただければというように思っております。

また、ご案内のとおり新総合体育館も建設の運びとなっております。これは、既に決定した方針でございしますが、一部市民の皆さん方には体育館を建設するよりも今の福祉的なものをもっと充実させて、そのお金を福祉のほうへ回せというようなお話もいただいているところでございしますが、いずれにしても予算の範囲で、そして防災拠点も兼ねた市民の皆さんの生命、財産を守る場所としても多くの皆さんがそこで集える場所としても、多目的に活用できるような施設にしていきたいと思います。

また、県では第82回国民体育大会、これも長野県内で開催をされるということがまだ決定ではございませんが、内々定されております。安曇野市からも2027年に向けて、新体育館が完成するのが平成32年度、平成33年3月ということでございますのでやはり国体に出場できるような選手の育成というようなことも視野に入れてほしいなと思っておりますし、またできれば何らかの室内競技を新総合体育館で開催していただけるような運動というか、これから関係方面への働きかけというようなものも必要になってくるのではないかな、と。そして、そのためにはある面では一定の目標を定めた指導者の養成ということも行っていく必要があるのではないかなと思っております。部活動などを通じて、今からこれらの具体的な目標を持った取り組みというものに視点を合わせる必要があると思うので、しっかりこれは教育委

員会の内部においても検討をしてほしいというようお願いをいたします。

どうか本日はそれぞれの思いというか、率直な意見を重ねていただいて安曇野教育の充実に寄与していただきたい、そんなことをお願い申し上げまして最初の挨拶とさせていただきます。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

---

### ◎教育長挨拶

**教育部長** 続きまして、教育委員会を代表し、橋渡教育長からご挨拶をお願いいたします。

**教育長** では、座ったまま失礼させていただきます。

本年度第1回の安曇野市総合教育会議の開催にあたりまして、安曇野市教育委員会を代表してご挨拶を申し上げます。

宮澤市長におかれましては、本年6月22日に開催されました市長、副市長と市校長会との意見交換会にご出席をいただき、教職員の時間外勤務の実態についてご理解いただいたところでございますけれども、本日はその延長線上の課題として教職員の児童生徒と向き合う時間の充実に向けた支援策等についてを協議題として、本日の総合教育会議を開催していただきました。まことにありがとうございます。

もとより教育の営みというのは、教師と子どもが人間と人間という関係で真剣に向き合うところから始まるものと思っていますのですけれども、その原点と言うべき向き合う時間がなかなかないであるとかしっかりと向き合っていないくらい忙しいという、この学校の現実には過重労働という側面と同時に教育そのものの基盤を揺るがす大変大きな問題であるとらえております。

これを少しでも改善し、教師は健康で元気はつらつとした表情、声、気力、体力を充実させた姿で子どもたちの前に立って児童生徒一人一人のよさを一層伸ばし、本年度掲げております「たくましい安曇野の子ども」に成長させてほしい、このように切に願うものでございます。この願いは地域も、そして保護者も同じように思っていることではないかと感じております。

本日の総合教育会議がこの解決に向けてのきっかけとなり、市と教育委員会が共通理解、認識のもと教育環境の一層の改善、整備が少しでも前進する有意義な会議となりますよう、期待申し上げてご挨拶とさせていただきます。

どうぞ、よろしく願いいたします。

---

◎議事 (1) 教職員の「児童生徒と向き合う時間」の充実に向けた支援策等について

**教育部長** それでは、早速4の議事に入らせていただきます。

議事につきましては、この会議の主催者であります宮澤市長より進行をお願いいたします。

**市長** それでは、しばらくの間議事進行をさせていただきますので、皆様方のご協力をお願い申し上げます。

まず、教職員の「児童生徒と向き合う時間」の充実に向けた支援策等について、事務局から説明を願います。

**教育部長** 『教職員の「児童生徒と向き合う時間」の充実に向けた支援策等について』資料により説明。

**市長** ただいま、事務局から説明がありましたけれども、それぞれ委員の皆様方からご意見等ございましたらお願いいたします。

**唐木委員** お願いいたします。

児童生徒と向き合う時間の確保ということで本日議題にさせていただいているわけですが、向き合う時間ということについて少し考えを述べさせていただきたいと思います。

教職員の全ての活動は、子どものよりよい育ち、本市で言えばたくましい安曇野の子どもたちを育成していくためにあるということになります。

それで、先ほど校長会等からの資料の中の資料1の3ページになりますけれども、時間外勤務の業務内容という6のところ、教材研究、教材作成、授業の準備等々に一番時間を要している、時間外勤務が多いんだということが載っておりますけれども、これは私ある意味では非常に先生方が頑張っているな、自分の本務であるもの、つまり一番やらなくてはいけないことに時間をかけているなというふうに思うわけです。

それで、子どもと向き合う時間を本当に言葉どおり顔と顔を合わせることで子どもと向き合うのかということを考えていったときに、そうではないのではないかなということもできるのではないかな、と。例えば、このように教材研究とか教材作成、授業の準備をしていくときには子どもの顔を思い浮かべながら実態を見極めながら先生方は準備をしている。そうすると、教材研究とかこういう時間を確保すること、これもやはり子どもと向き合う時

間として十分確保していかななくてはいけないのではないかとこのことを思うわけです。

これは、少し心配事なんですけれども、これから2020年の間に新学習指導要領が実施されていくわけですが、その中で学習の仕方も主体的・対話的、深い学びを求めていく。それから、特別な教科、道徳が教科として行われている。その中では、従来よりもさらに考え議論する道徳を求めていく。そして、実践力となる道徳を求めていく。それから、小学校の教科としては外国語が入ってくる。3・4年生に外国語活動も入ってくる。さらに、いじめのない安心・安全な学校を求めていくということになりますと、こういう先生方が本当に他にかえ難い、担任でなければできない、この先生方でなければできないという時間を十分に確保していく、そこを議論していくべきではないかと思うわけです。そうすることによって、健全な勤務や生活の中で本務に十分な時間をかけ、その中で市長さんがおっしゃる長野県一、日本一の教育を求めていくのだというふうにも子どもと向き合う時間を広くとらえていくべきではないかということも最初に思うわけです。

冒頭、以上であります。

**市長** 事務局、何か具体的な答弁、コメントはありますか。

そうすると、具体的にどんな施策を講じていけばいいか。

**唐木委員** 今日、提案が幾つか出ているわけですが、やはりできるところから手をつけていく。データが幾つか示されているわけですが、教材研究とか教材作成の時間をいかに確保していくか。これは、校長先生方の学校経営ということにもかかわってくるだろうし、それから今日前段のところでは提案が事務局のほうからあった部活動見守り隊みたいな朝部活のところについてはそういう制度を用いていくのか。または、申し合わせどおり朝部活はやらないんだという線を教育委員会として出していくのか。もし、それが学校の実情に合わないとしたらそこへ先生方がかかわらなくてもいい。他に変わられるものところは、今の政策として行われている中で対応していくということも求めていくべきではないかなというふうにも思うわけです。

**市長** いずれにしても残業時間というか、先生の負担を減らして、そして子どもと向き合うと言ってもなかなか時間内で全てそれが完結しない問題だと私はとらえているんですけれども、部活動を通じて人間関係もできる。ただ、土日、一定の先生に負担がかかるというのもまた何とかしなければいけないということだと思われ、時間外を一切やらないということになると、時間内だけで子どもとどう接するかということになれば時間だからもう帰るといふことになれば、本当の意味で子どもと接する時間が限られてしまう。その辺の現実と時間外をな

くして、子どもとの触れ合う時間を増やすというのはどう整合性をとらすのか。

**須澤委員** 私自身、運動部の顧問を中学勤務のとき、それから高校へも引き継いで同じテニス部の顧問をずっとやってきて、その経験から今の問題について自分の感覚を申し上げたいと思います。

結局、理屈から言うと自分がテニス部の顧問だとすると、全責任は自分で負うのだ、こういう気持ちになるんです。ですので、生徒がいる間は自分がいる、朝やるとき、放課後やる時も自分がいるんだ、こういう気持ちだったですね。現在もそれは同じだろうと思うんですよ。ですので、生徒たちを何とかしてこの中信地区の代表にしたいとか県大会へ連れて行きたいとか、ひいては全国大会へ行きたい、こういう気持ちは持ってもらわないとこれはだめだと思います。それは否定するものではない。

しかし、これは校長会のほうからご提案があったことだとお聞きしました。この部活動見守り隊という事業は配置できないか、こういうふうに聞きました。ということは、部活動顧問の先生の配下と言っては何ですが、先生方、お持ちの校長先生方がそれを集約して熱心に行おうとしている先生たちの負担が少しでも軽くできる方策はないものかな、この両立はどうしたものかなという、そこも考えながら提案してきたと思うんです。ですから、私は全部の学校にこれをやれと言ってもだめだと思うんです。必要だという学校があったら、では予算化しましょうかという、こんな姿勢、こんなことかなと私は思いました。

**市長** 中には、全ての先生が同一というのではなくて、私はこういった指導者としての責任と自覚を持って誇りを持って生徒を育てるよという意気に燃える、ある意味では責任を持って頑張るぞという先生も、あるいは休日も毎回出てくる、大変だという先生とそれぞれ個々の状況というのはあると思うんです。だから、一定の保証はなくても生徒指導に情熱を燃やす先生もいれば、時間外はもう大変だし自分の自由な時間がなくなるからということで、そこには個人差というか、ものの考え方、あるいは価値観の相違でいろいろな意見が出てくると思います。

そういうものを全て一律的に考えて、条件づくりをするということが本当の意味での個性や能力を伸ばす教育に通じるかどうかというのが、私もちょっとその辺必ずしも理解できない面があるんだけど、教育関係に携わっている職員の皆さん、どんな感じを持つか。それぞれの思いというのもやはり意識共有する必要があると思うので、ただ黙っているだけではなくて、自らの考え方とか見方というのは披歴をしてもらって議論をし合うということが大事だと思います。

今日は、屈託のない意見を自由にとということだから職員の皆さんも交えて、教育現場において責任を持つ皆さんだからいろいろな視点から論議をしてほしいと思います。これは、提案したのを通り一遍に、はい、そうですかということではなくて、屈託のない意見を議論する、こういう話だから。

**教育長** では、お願いします。

今日、議題になっております中学校の部活動支援についてですけれども、県で望ましい部活動のあり方についての指針が示されて、安曇野市でどうするかということを経年前議論いたしました。

これまで、安曇野市では朝の練習はもちろん毎日のように全ての学校、全ての部活動でありましたし、放課後も6時ごろまでやっておりました。その後、社会体育という名のもとで学校の部活動は終わるけれども、メンバーがそっくり同じで顧問の先生も指導者に入って、そしてまた夜の活動があるというようなことが非常に過重ではないかということで見直しを図って、そして最終的に合意が得たのが今現在やっているという、こういうことであります。

その中で、朝の活動だけに限って言いますと、原則的には大会前以外は朝部活はない。要するに、教師が指導のもとで朝の1時間なりの練習は原則的には行わないということにしたわけです。しかしながらそのときも、いや、私たちはもっとやりたいのだからやらせてもらいたいという生徒の声も確かにありました。でも、逆に今のように朝も晩も休日もずっとやっていると自分の時間がほとんどないし睡眠時間も削られるし、宿題もやっとならしているような毎日では非常に苦しい、せめて朝だけでもなくしてもらいたいというように声もございました。

部活動に関しては、これは保護者もそうですけれども、本当に両極の議論がありましてその結果大会前は4週間、学校長の許可のもとで認めましょう、と。こういうことで、ただふだんはどの子も全部出てきて部活をやるのではなくて自分たちで計画をして、そして都合のつくといいますか、どうしても無理な人は来なくたっていいという中で自主練習という形になったわけです。

そんな中で、現在そうは言っても学校の時間内にやる活動は、安全面を考えても子どもだけ放っておいて教師は中で自分の仕事をしているというわけにはいかないということで、多くの教師が安全を見守るということで参加していることが現実としてはあるということです。

そこで今回、校長会から部活動見守り隊という、要するにここの部分は教師は学校へ来ていても来なくても、直接生徒のところには行かないので地域の方々が生徒の自主的な活動を

安全を見守ってもらえないか、こういう提案なんです。本年度、安曇野市はスクールサポート事業からコミュニティスクール事業へ変えて新たにスタートしました。その中に課外活動、部活動の支援ということでメニューがあるのですけれども、そこにさらに見守りというような技術的な指導をするのではないけれども、地域の一員という目で地域の子どもの活動を見守るんだというようなことでできないかというので提案をさせていただいたわけです。

これは、予算的なことも伴いますし実際通年200日くらい来ていただける方、1人でなくてもいいわけですが、本当にいるかどうか、そんなことも含めてこれからこういう方向でいくとなればいろいろと地域とも話をしていかなければならないと思うんですけれども、これは地域とともに作る学校を目指している今の安曇野市の教育委員会の方針に理念といえますか、それに一致している方向であってこれは取り組む価値があるだろうなと思います。

では、先生たちは朝子どもたちに指導しないから先ほど市長さん言われたように自分の部を責任を持って引き上げていきたいという、そういう熱い思いは当然部活動という時間がその日の午後に確保されているわけですから、そこで精いっぱいやってもらえばいいと思います。時間が長ければいいという風潮は昔はありましたけれども、今はやはり科学的な効果のある指導を研究して短時間でも力のつく指導は研究されているわけですから、そういうのを顧問が身につけた上で理想を高く持って、子どもたちとともに励んでいく部活動はそういう中で是非進めていただく。そういう意味でも地域の力を学校に入れるということは非常に意味があることではないか、そんなことを考えています。

以上です。

**市長** 他に、意見はございますか。

**二村委員** 親の立場としては、小学校6年間と中学校の3年間において勉強や部活でたくましく、生き生きと生活してほしいなと思うんです。そして、学習面では授業に集中しているのかなとか他のクラスと比べて学習の進みぐあいが遅れてないだろうとか、先生本来の指導に遅れがないかどうかということも心配をしたり、また期待もしています。

勉強で結果を出してほしいという思いと同時に、他の欲も出てきまして最近では中学生が将棋だとか水泳だとか全国ですごく頑張っているのを聞きますけれども、他の学校から注目されるように部活でも活躍してほしいなという欲が出てきます。頑張っている結果がつけば、その先の高校等に進学するための選択肢の一つになると思います。

資料をいろいろ見た中で、安曇野市の学校の中では指導者として学校職員の他に外部コーチも現在何名かいらっしやいますけれども、部活の練習の不足分は外部コーチのより高い技

術の指導ということで有効利用を補ってもらおうという、人的にも経済的にも現在今以上にサポート体制を充実させてほしいなという思いはあります。

そして、地域住民の立場としては児童や生徒がさまざまな活躍をするところを見るのはとても楽しいです。市大会、中信大会、そして県大会、北信越、そして全国大会と期待感も膨らみますし応援にもとても力が入ってきます。安曇野から世界へという夢も膨らみますが、いざ私のように理想ばかり考えている人も多いかと思うんですけれども、先生方が時間をつくるためのさまざまな努力と、また検討しているということがこの資料から読み取れて、ほとんどの学校がそういうことをしている、と。個人的にも、また学校としても定時退校日の設定やノー部活デーの設定など、この資料から本当によく読み取れるんですね。

今までのこの資料の中から、先生の勤務実態であったり、民間のように時間外勤務手当が出ないですというような現実を市民の方々に理解をしてもらう、そして知ってもらう努力も必要になってくるのではないかなと思いました。

以上です。

**市長** 他にございますか。

**横内委員** 先生がお忙しいということは、本当にそうだと思います。先生たちも、保護者の対応であるとか地域との関係の調整であるとか行事などの対応に時間を割いていることを見てもすごく感じます。校長会でも出された資料を見てもその多忙さを知りました。

部活動の顧問を積極的にやっている先生ほど忙しいです。でも、多忙な中でも充実感を持っておられる先生もいて、最終的には先生方のやりがいにそれがつながつているんだと思います。そういう先生に出会えるということで子どもの人生にとってもすごい宝となってきたなど、私の経験ではそういうふうに思います。

ただ、経験のない部活を指導することがあるという、資料でありましたけれども、それはすごく難しいことだと思いますし先生の負担、精神的な負担にもなっていると思います。そのところに地域の人が入って行って、先生が例えば人事異動でいなくなったとしても地域の人が継続的にその部分を支えていける、指導していけるということになると、それは先生方の負担は減っていくのかな、と。資料3の(2)部活動指導員、これが導入されたなら先生の負担は確実に減るだろうなと思います。

ただ、一方で子どもの負担がどうかと考えたときに、地域の熱血の人が引き受けてくださったらすごく積極的にやると思うんですね。長時間やれば強くなる、強くなることだけに偏らない指導ができる人が指導者になってほしいですが、根性論とかで練習が過酷になる可

能性も秘めているなど一方では思いました。

**市長** これは、非常に難しい課題だと思いますね。運動系にしても文化系にしても、経験や指導歴がなく指導力に不安があるという皆さんが文化系では40%近い、運動系では30%近い皆さんが指導力に不安がある。ただ、見守っているだけだと競技力向上にはならないし運動をやることはいいことだし仲間づくりにもなると思うし、体力づくりや精神力づくりにはなると思うんだけど、一つには校長会との協定の中で原則行わないということで大会があるときには校長裁量でやる、と。大会はあくまでもこれは上位入賞を目指すという一つの目的があると思う。だから、大会を目指してその間は強化的にやる、こういうことだと思う。校長会の発議だということで協定してやっているんだけど、どんな問題でも矛盾ははらんでいると思うし先生としてはしっかり専門的な知識を持ちながら子どもの能力を伸ばしたいという先生も朝な夕なにはいると思うし、この辺を一括りにしていいのかどうかというちょっと疑問は感じるんだけど。

**唐木委員** お願いします。

最初、朝の部活だけに限って言うとしてもすっきりしないのは、平成27年のときから始めてきた部活動の方針というものの中で朝部活はやらないんだ、と。ある条件のところでは指導のもとでやってもいいですよ、その他は自主練習としますと言ったところについて、最初これがつくられたときからこの部分が非常にあいまいな運用になっていくだろうなということは予想されたんですね。それで、この部活動の方針が出たのは生徒への過剰負担とか、それから本当に年中活動しているところの見直しから出てきたことであって、これには指導者の側というか、職員の事情は全く入っていないのです。

今回、もし自主練習のところを見守り隊というような形で市の教育委員会がかかわってやっていくということになると、自主練習というものをもう公に認めていくという立場にもなっていくことになるので、それでただ校長会のほうも朝の活動というのは確保してあげたい、確保したいという意味も働いているわけです。実際、動いて3年経つわけですのでこの部活動の方針をこれを見直してもいいのではないのか、手をつけてもいいのかという気も今ちょっとしたわけです。

それは、指導者の側の勤務時間とかそういうものも入ってきて、自主練習というときには学校でやっていますから学校のほうの安全確保に対する配慮義務は当然生じるわけですので、そのことを含めてもう一度見直してみる、と。朝部活についてこれでいきますと、適正な指導助言をし安全対策や職員の巡視等について確保を講じておくことというこの文言が入って

いるのですが、県の方針が出たわけですけれども、原則の朝部活は行わないのだというところから一つバイパスをとっているわけです。だから、自主練習という名称がいいのかどうか、検討する必要があるのですが、朝の活動を行うときにはそれに対する安全配慮を行うのだというところに持っていくかどうか。そこを学校のほうと実態の中で見直してみてもいいのかなということを思います。

以上です。

**市長** これ、教育委員会としては今日教育会議で結論を出していかないといけないということですか。

**教育部長** 特段、資料に基づいてお話をさせていただきましたが、結論を出すという必要はないと思います。ご協議いただく中で、導かれていければいいというふうに考えております。

**市長** そうすると、いろいろな意見を出していただくということですが、他にご意見がございませうか。

**教育長** それでは、お願いします。

今の部活動の指針自体を見直したらどうかということにつきましては、また事務局内部で検討させていただきたいと思います。

それで、安曇野市では先ほども私の発言の中にありましたようにコミュニティスクール事業で外部コーチとして、資料に基づくと61名が今登録して部活動支援をしてくださっているわけですね。これは、ほとんどが運動部系の外部コーチというのですから、そういう名前ですけれども、運動部系なんです。中学校の41名のうち40名が運動系ですので。

提案の2のほうにあります今後、部活動指導員の配置というのが具体的に検討されてきたときにその部活動の学校の顧問の先生にかわって指導をし、そして大会の引率までできる、こういうような指導員を国のほうでは設けられるように法整備をしたということで、今後県と連携しながら市でも準備を進めていきたいと思っているんです。先ほど、市長さんもおっしゃったように経験、指導に不安ありというのは運動部系よりもむしろ文化系の教員のほうが抱いているという、この実態を考えると、まず安曇野市として既に外部コーチとして大勢専門家が入っているわけですので文化系の指導員といいますか、そういったほうに少し目を向けるということも必要ではないかというように感じています。

例えば、安曇野市内でも芸術家、絵画もそうです。陶芸、彫刻をする皆さんは生涯学習にもつながる活動をされている方は非常にたくさんおられます。また、理科系でも私の存じ上げているソニーを退職された方で、非常に最先端の工業技術をお持ちで安曇野市の子どもた

ちにはこういったものづくり産業への興味をうんといだいて、理科系の興味関心を抱く子どもたちをうんと育ててもらいたいという、そういう方もいらっしゃるんです。ですから、例えば科学部というような部活動の顧問として、そういう方がもしやっていただけると言ったら部活動指導員として入っていただくと、それによってそういった子どもたちの個性、能力が一層引き伸ばしてもらえenと思います。また、音楽は大会があるんですけども、美術、科学についてはそんなに休日に大会引率はあまりないですよ。そうすると、平日にこれも毎日ではない活動に来ていただけるということは、運動部系の部活動に外部の顧問として入っていただくよりは入りやすいのではないかと、そんな思いや期待も感じておきまして、2番目の部活動指導員の配置については安曇野市も今後大いに研究をして取り入れられるものは入れていく方向を考えたかどうか、そんなことを思っております。

以上です。

**市長** 開かれた学校、地域とともにある学校という面では、社会人の経験を生かしてもらって大いに連携して生徒指導の事業にあたっていただくことはいいことだと思います。その一方、やはり力のある正規の職員、指導力のある先生を求めていただくということも非常に大切なことだと思っております。

文化系にしても、安曇野市にはいろいろな芸術文化、造詣の深い皆さんがおいでで日展でも入選をする陶芸作家であるとか彫刻家であるとかいろいろの皆さんがいらっしゃるんで、そういう皆さんの知恵も積極的に導入をしていただくことは大変いいことだと思いますけれども、学校の受け入れが学校管理は校長先生の裁量だというようなこともあるし、各学校によって若干の温度差はあるのですよね。よくは、現場のことは熟知はしていない立場ですが、それぞれの情熱を持った先生が多いと思うので、安曇野教育の振興により力を尽くしていただくということだと思います。しっかり力のある先生をやはり採用していただくということが大事なことだと思います。

いずれにしても、これ議論が尽きないので後でまた時間があれば議論してもらおうということで、事務局からの他の提案について一通り説明をしていただいた後にまた論議を深めさせていただきたいというふうに思います。

そんなことで、進め方よろしいですか。

(「はい」の声あり)

◎報告事項 (1) 市内高等学校長との意見交換会に係る報告について

**市長** それでは、まだ意見が出尽くしていないところではありますが、報告事項に入らせていただきます。全ての議題が事務局から提案の後に、また論議を深めていただければと思います。

報告事項(1)で、市内高等学校長との意見交換会に係る報告についてということで、事務局のほうから説明をお願いします。

**教育部長** 「市内高等学校長との意見交換会に係る報告について」資料を読み上げ。

**市長** それでは、ただいまの報告事項に対して何かご意見等ございましたら、お願いいたします。

事務局から出された意見で高等学校の校長会、教育委員会事務局との意見交換会の中で提言のあったもので、平成29年度からは予算化をしてこういうものをやったらどうだという検討は、これから具体的にこういうものやりたいとかまだなされていないということですか。

**教育部長** 6月21日に開催された会議でまとめ上がったという段階でございまして、これから順次できるところから、また提出された中で予算化できるものから取り組みを進めてまいりたいと思います。

その中ですぐできるものと申しますと、1ページ目の下から2段目、市教育委員会文化課の博物館準備室で行っておりますコンパクト展示の巡回を今小中学校で実施しておりますが、高校に出向かせていただきたいというような予算のかからないものについては、すぐに対応させていただきたいというふうに考えています。

**市長** それで、できたらこの間も市民の皆さんから1階のロビーを作品展等に使いたいという話がありました。これは、財産管理課庁舎管理系のほうと連携をしなければいけないけれども、もちろんそこに美術館、あるいはこっちに博物館があるんだけど、そういうところに行かれる皆さんの他に一般市民が庁舎へ来る回数は非常に多いのでこの1階ロビー、あるいは4階のスペースの活用を今も一部はしてもらっているけれども、そういう空きスペースを活用して多くの皆さんにいろいろ触れ合ってもらおうとか、あるいは美術館にある収蔵品を例えば市のよく言われるのはほりで一ゆ〜四季の郷、ファインビュー室山等は壁へかける絵の交換をやってほしい。こういうことで、出せるものは公共施設へ巡回をして多くの皆さんの目に触れてもらって感動を与えるというような、そんな施策を積極的に教育委員会としてはやってほしいんだけど、指定管理に任せてあるということだけではなくてせっかくある作品の活用について考えて、それは文化課でやっていくようになるのかどうか。

**文化課長** ただいま市長の関係であります。美術品の貸し出しについては既に貸し出せる目録を作成して年度初めに全所管に見ていただいて、活用できるところにつきましては既にそれぞれの支所等で貸し出したものを使っての展示なり行っていただいております。

当方のほうから出向いてというところでは、回収までというとなかなかコンパクト展示もやっておりますし限界もありますけれども、受け入れ側の協力体制があればその目録の中から貸し出しできるものを選んでいただいて対応がいつでもできるようになっているということでもあります。

以上です。

**市長** 他に、委員の皆様方から何かございますか。

**唐木委員** お願いいたします。

今、高等学校の校長先生方と教育委員会事務局との意見交換会のものが話題になったわけですが、各校長先生方のご意見等読ませていただきますと、連携をさらに深めていきたいとか一歩進めて協働的なものも行っていくという意欲を大変感じるわけでもあります。

それで、例えばある高校とある中学校が一つ一つが関係づくりをして、そして実践していくのはなかなか難しいわけでもありますので、教育委員会の事務局の中でこれをうまくマッチングさせるような、そんな営みもしていただけるとありがたいかな、と。

特に、先ほどの部活動のことも関係しますけれども、例えば10小学校、それから中学校、それぞれ一律にとか同じようにということはなかなか難しい部分がいっぱいありますし、そしてそれぞれの学校の特色もありますので、まさにやれるところ、やる意欲のあるということに最初は重点に入ろうとしていただくという、そんなことも大事ではないかという気がします。どうしても平等にとか、それから平準的にということに目がいくし、それも非常に重要なことであるわけですが、部活動のほうにしても手を挙げたところにやってみてもらおうとかそういうところを開拓していくことも大事ではないか、高校との連携もそういうところにあるのではないかという気がします。

以上です。

**市長** 豊科高校の校長先生と明科高校の校長先生から、中学と高校で教員が学校に出向いて授業を公開して行うことはできないかという提案があるけれども、こういうことは可能ですか。高校の教員が中学でどうやって教えているのか知ることは、非常に大切であるという意見ですが、こういうことは可能か。教員の人事交流というところだと思う。学校教育法ではどうなっているか。

**学校教育課教育指導室指導主事** よろしいですか。人事の関係では中高交流で中学の先生が高校へ、高校の先生が中学へということがございます。

実際、公開授業等で中学校の授業を公開するときに高校の先生、また高校の授業を公開するときに中学の先生ないしは義務の先生が行く状況にはもちろんあるかと思えます。実際どの程度行かれていくかというのはこちらのほうでつかんでいませんけれども、そういったことは往々にして行っても問題ないことかなというふうに思います。

以上です。

**市長** これで、何らかの連携がとれて効果が上がるとすればこういうことも挑戦してみる必要はあるかもしれないね。

**須澤委員** そうですね。

今、ご説明あったように教員の中高交流はもう前からずっとありまして、3年間なんですよ。最初は2年だったんですけども、3年でなければ行って担任ができないということで、3年になってその制度がずっと行われているということがございます。

それはそれとして、私が思いますに今の校長先生の授業はどういう内容か知りたいというのは、高校の生徒さんが中学なり小学校なり、中学校へ行くほうがいいかもしれませんが、出前授業というものです。特に、職業系の学校で出前授業に行くということは実施されています。総合的な学習の時間を使わせてもらって、それをもちろん高校の先生方もついて行きますから、同時に生徒さんのことを知ることができる。向こうの生徒さんですね。ただ、先生方のやっている授業を見学というのはあまりお聞きしたことはありません。これは、お互いに企画すれば不可能ではない。見学ということは、別に規制されたことを私も聞いたことがありませんので、むしろ高校側で喜ぶのではないですか。ですから、それはやはり積極さ、高校側の積極的なご提案をいただく、これは大事ではないか。

私のことを言っただけですが、穂高商業高校におりましたときに教育委員会に諮らせていただいて、地元の二つの中学へ出前授業をやらせていただきました。総合的な学習の時間に、商業とは何ぞやという授業をやらせてもらいました。これは、本当に興味を持って聞いていただきました。残念ながら穂高だけに限ってしまいましたが、やはりお二方が聞いておられるようにさまざまな手段を講ずることがまず大事だろうと思います。

以上ですが。

**二村委員** この2校の高校の先生がこういうことをおっしゃっているというので思ったのですが、けれども、県内の高校進学の際に中学生が長野県以外の高校に進学するのが420名くらい、

通信制に行くのが340名くらいという数字も実際には出ているので、中学生の子どもたちのニーズを知るためには中学と高校とで交流をするということはとてもいいきっかけになるのではないのかなとは思いますが。

**市長** 場合によっては、これは校長先生と教育委員会事務局ではなくて、高校の校長先生と小中学校の校長先生との懇談の機会はないわけですか。

**学校教育課教育指導室長** あります。

**市長** それは年に何回くらい。

**学校教育課教育指導室長** 年に1回です。

**市長** 先生たちもお忙しいとは思いますが、年1回ではなくて少し連携を深めていただきたいなというように思って、それから中高の連携は極めて地域交流性という面からも大切だというように私は感じております。それから、明科高校から出されている危機管理課との緊急避難場所の指定の問題、こういうことも教育委員会とはちょっと離れるけれども、行政の市民のあるいは生徒、児童の命を守るという面からも、特にいつ、どこで発生するかわからない災害に備えるという常日ごろの連携というのは非常に大切になってくるのではないかと思うので、また教育委員会が中心になってもらってそれぞれの市長部局の危機管理対応をとるときに連携してもらわなければいけないなという思いがあります。

それから、福祉のほうの関係も当然出てくるんだけど、発達障がいの子どもの対応の仕方についても、義務と高校というのでなくして福祉関係との横の連携が非常に大切になってくるもので、その辺を踏まえて事務局で対応していただきたいと思えます。

**学校教育課教育指導室長** 私も高校と中学の実際の授業交換というのはあまり聞いたことはないのですが、できることから始めている事例を一つお話をしますと、今お話がありました毎年9月に市内の小中学校の17校の校長と高校の校長先生方の懇談会を行っています。昨年の懇談会の折に、今高校でも特別支援教育が大変大事な課題であるというお話をいただきました。それは、小中学校も同じでして安曇野市は特別支援コーディネーター、各学校特別支援教育のリーダーの先生たちが隔月で1回集まりまして、情報交換とか方向性をいろいろ研修も含めて行っております。その会に高校からもどうですかというお話をしたところ中途からでしたが、昨年度4校の高校のコーディネーターの先生方が参加していただきました。

私もありがたかったのは、いろいろお忙しい中で欠席することも小中学校でもあるのですが、高校の先生方は全出席でいつも熱心に聞いていただいたり、中には意見を積極的に言ったりしていただいています。やはり小中学校と高校の連携ですが、そういうできるところか

ら今安曇野市は始まっていますので高校の校長先生方、それから安曇野市の校長先生方もやはりコンパクトな市の強みを生かして連携していくことは意味のあることだと思います。そのようなところで、まずできることから連携を進めていただいている現状です。

**市長** 発達障がい児、本来なら義務教育というとらえ方からすればもっと県なり国なりが責任を持ってもらって、財政面も人材面もしっかり義務教育としての責任を果たしてもらいたいのだけれども、結局財政が厳しいというような話で各市町村にある面で投げられてしまっているということがあるので、これはもっと積極的に県なり国なりに要請をしっかりとっていくという必要は感じています。

他に、何かございますか。

(発言する者なし)

---

#### ◎報告事項 (2) 前回の総合教育会議の議論を踏まえた取組みについて

**市長** なかなか議論が尽きないと思いますが、続いて全て報告していただいているということで時間が押しておりますので、前回の総合教育会議の議論を踏まえた取組みということで事務局から説明をお願いします。

**教育部長** 「前回の総合教育会議の議論を踏まえた取組みについて」資料を読み上げ。

**市長** ただいまの説明に対して、ご意見、ご質問等ございますか。

これを十分に生かしてもらって、一つの目的は時代の流れに沿った形で電子黒板を入れたということですが、この目的というか、成果はどういうところへ求めているわけですか。学力向上なり、あるいは今の情報化時代に対応した子どもの育成なりということになるのかと思います。しっかり使いこなさなければまたいけないし、その辺は指導するかは。

**学校教育課長** 市長おっしゃられるとおりにこれに伴って、先生の成果が見えるようにしていきたい。指導については、何を使おうかなということで今検討はさせていただいています。

やはり、一番は子どもたちが授業がわかりやすくなった、理解できるようになったということかなと思っております。それには、今おっしゃられたとおりにそれを使う先生方が有効的に活用していただくということが必要だなということで、セイコーエプソンさんのご協力によりまして使い方等の説明会、これを数回開催させていただく中で研修等を行っていきなと思っております。

以上であります。

**市長** それで、メーカーのほうから教育指導というか、先生たちがしっかり活用できるような技術指導というか、そういうのはこっちの要請に応じて来てもらえる体制はできているわけですか。1回か2回来て説明で終わりということになってしまうのですか。

**学校教育課長** 今のところ各校3回程度ということで計画はしておりますが、また必要に応じてメーカーとも相談させていただきたいと思います。

**市長** せっかく入れた機器を私のような古い人間はなかなか難しいのだけれども、それを使いこなして授業にしっかり生かせるまでの使用方法を熟知してもらおう。それには、メーカーがしっかり来て指導してもらおうことが大事だと思うのでお願いします。

何か他の委員の皆さん、ありますか。

(「なし」の声あり)

---

### ◎資料3 教職員の時間外勤務縮減に向けた部活動支援の方策について

**市長** そうすれば、もう1回元へ戻ってもらって部活の問題を含めて、資料3、仮に教育委員会事務局で想定しているような方向でいくとすれば資料は出されておりますけれども、具体的な内容説明まで入っていませんのでその辺の説明をしていただいてから意見交換をさせていただきたいと思いますので、今教育委員会として想定をしている内容等について、資料3を説明してください。

**教育部長** 「教職員の時間外勤務縮減に向けた部活動支援の方策について」資料を読み上げ。

**市長** それで、この配置人数についてはそれぞれ学校からの要望に応じてこういった配分をされたということか。それから、延べ活動日数についても、大分活動日数についてはばらつきがあるのだけれども、これはあくまでも朝練に対してということだね。

**教育部長** 朝の自主練に対してでございます。

**市長** 朝の部活、回数がばらつきが極めてあるんだけれども、1週間に何回とかこの回数というのは校長先生なり現場の先生からの要望に応じた見込みは何を基準に計算されたのか。お願いします。

**学校教育課学校教育係長** こちらの資料のほうにございます小中学校のクラブ・部活動外部指導者の配置状況ということで、平成29年度、平成28年度の資料を載せてございます。これにつきましては、スクールサポート事業の中で各学校のほうから部活動に関しまして指導者、この練習日程で行いたいということで事前に申請をいただいた人数、また延べ活動回数、こ

ちらのほうの集計でございます。これの実績に合わせまして、現在コミュニティスクール事業、また昨年におきましてはスクールサポート事業へ謝礼のほうを部活動外部指導者のほうにお支払いさせていただいております。

以上です。

**市長** うんと少ないのでは、平成28年度は美術部が1人で6回というのがあるんだけど、今回はスポーツだけに絞ったということで他の文化系は一切部活の中には入れない、こういうことでいいわけですね。あるいは吹奏楽部とか金管バンド、合唱部、こういうのは入るけれども、美術は抜かした6回だけだから。

**学校教育課長** すみません、今資料3の3ページ、4ページだと思いますが、これは小中学校のクラブ・部活動の外部指導者ということで、朝練習ということではなくて授業が終わってからの指導をしていただく先生も入っているということでございます。今回のものにつきましては、朝練習への指導としての対応といたしますか、補助といたしますか、そういうものを取り入れているかどうかということでございますので、この3ページ、4ページの表とは若干性格が違うものであるということでもあります。

**市長** そうすると、これは朝の自主練習の安全を見守るというのとは関係ない資料をここで添付したということなんですね。

**学校教育課長** コミュニティスクール事業でやっているメニューの一つであるということで資料として掲載させていただいているということでもあります。

**市長** 試算をした額だと、総額とか。

**学校教育課長** 1ページ目の(1)の一番下のところがございますけれども、ボランティア等であるわけですが、1時間540円、7校全てが活用したとして1時間程度ということではありますが、さまざまな体育館から校庭で行っている部活動の朝練習を見守るということでもありますので、2人、年間約200時間、200日ということになると思いますけれども、最大で見て計算すると150数万円の謝礼が見込まれるのではないかとということです。これは、全ての学校で活用した場合ということです。

**市長** でも、これは室内競技と陸上は室外と両方ある。それを幾つもの活動を2人の先生を張りつけると、こういう予定ということですね。

**学校教育課長** そうです。見守りでありますので、指導ということではなくて安全に行われているか、あるいはけがをしたというような連絡が入ったときにいち早くその場に駆けつけることができる、そのようなことから見守りということでそれ以外の指導等はいりませんので

2人で対応をした場合ということでございます。少なれば1人でもいいのかなというふうには思います。

**市長** 今、管理者責任が問われてすぐに裁判闘争みたいなことにも発展しかねない事例があるけれども、するとこれは見守りということだけで、万が一の事故等が発生した場合コミュニティスクールに参加されている見守り隊の皆さんには責任は及ばないということでもいいわけですか。

**学校教育課長** 見守っている方の過失とか、そういうものが及ばないのかなと思います。ただ、子どもたちが訴えてくるのをそれを無視したとかそういうことになれば別でしょうけれども、そういう方はあたらないうことであるので、その辺については問題ないのかなというふうに思います。

**市長** 委員の先生方から、何かございますか。

こんなことで教育委員会としては、いつからこれは実施していきたいということですか。

**学校教育課長** 平成30年度で考えています。

**市長** 新年度からということだそうです。

**唐木委員** (2)の活動指導員に関して、よろしいですか。

少し夢も含めてお話しさせていただけたらと思います。

今日の新聞報道でも時間外勤務とか部活動のあり方について、小中学校の業務改善推進協議会で検討を始めたという報道があったわけですが、それで冒頭の市長さんのご挨拶の折にもありましたが、2027年、長野の国体が開かれる、と。10年後になるわけですがけれども、ちょうど今の小学生とか中学生がアスリートとして活躍していく時期になってくるかなと気がするわけです。

それで、部活動の指導員について、外部コーチとして期待するものに高度な競技力の向上というようなことも挙げられております。是非、これから研究に入っていくわけですがけれども、体育協会とかスポーツ関連の団体等との調整とか、それから専門家の任用なんかにより安曇野市のスポーツ力の向上とか、そんなことにつながればいいなと思います。

それから、もう一つは新体育館ができていくわけでありますので、そこがスポーツセンター的な機能も持ってなかなか部活指導員というのも、例えば運動部に関して手当てをしていくというのは実際の動きになったときにはいろいろな困難も出てくるのではないかな、と。研究の段階で身分とか任用、職務、勤務形態、報酬等々についても検討されていくわけですがけれども、安曇野のスポーツの振興、それから子どもたちが将来のところで活躍できていけ

るような、そんな条件づくりのことも踏まえたものになればいいなという、そんな夢を持ちます。

出発は、もちろん教職員の勤務時間の縮減ということではありますけれども、やはりそのことが子どもの育ちにつながっていく、それから安曇野市の子どもたちが活躍できていく、そこの視点も必要ではないか、そんなことを思うわけであります。

ちょっと現実から少し大きな話になってしまいますけれども、そんな思いを持ちます。よろしく願いいたします。

**市長** そのことは、私も非常に大切なことだなというふうに感じていまして少なくとも子どもたち、特に女子生徒の体力が長野県の平均よりも落ちているという話をお聞きしてちょっとびっくりしたところです。できればということで、実は松本山雅の塩沢選手がやめるというような話があったときにスポーツ指導員として来てほしいということでここまで山雅の社長と本人と来てもらったんだけど、まだ本人はスポーツを続けたいという意識があつてそういうところへはいい話だけれども、まことに申しわけない、お断りするという話があったのです。何か、一つの目標を持った形でしっかりした指導者がいればその指導者のもとで学びたいという皆さんが安曇野へ来てもらえれば、非常にこの地域も活性化するのではないかという思いがあります。

観光大使は中村屋さん、それからアルパの上松美香さん等をお願いしているんだけど、できればスポーツ大使的なものが何かできないかな。例えば、今有森さんにハーフマラソンに来てもらっているんだけど、有森さんあたりをスポーツ大使、あるいは他にもスポーツ大使的なものを任命させていただいてスポーツ振興に力を入れてもらえるような、そしてスポーツの底辺拡大、そしてこの中からできれば少なくとも長野で国民体育大会をやられるということになれば、2027年、今から選手の育成というものを目指していかなければ急にやれと言っても、それはしっかりした選手は出てこないと思います。

例えば、今バレーでは浅野選手が三郷中出身ということで頑張ってくれているし、松本市や須坂市からもプロ選手が出ているので何か教育委員会として検討してもらって焦点を合わせて、せっかくつくる体育館だから室内競技を安曇野へ誘致できるような運動というのはこれからもしていく必要があると思います。これは一つの夢としてではなくて、実現をさせていくには今から力を入れていかなければ選手の育成もできないのではないかという思いがあるので、今一つの希望を持った形で教育委員会としても重点的に取り組んでいただけるような施策になればいいなという思いは、まだ政策的なものはしっかり打ち出してないし部長

会議にもかけてごさいませんが、私見でありますけれども、それぞれまたご意見を伺わせていただいて教育委員会として一定の方向を出してもらえればと思います。

全てを通じて、何かご意見ございませうでしょうか。

**須澤委員** この夏休みに電子黒板が中学全部に入る、これは画期的なことだと思います。

私、問題だと思いましたが先ほど市長さんおっしゃられたように指導に3回は来てくれるということがわかりましたが、どう活用していくか。これは、私が仮に現場だとすれば生かす道をしっかり考えなければいけない。なかなか大変だろうと思うんです。それに対して教育委員会としてというか、市としてどんな援助ができるのかということですね。一過性の技術支援だけではちょっと難しいのではないかな、そんなふうに思います。

2点目は、平成32年度から現在の紙の教科書とともにデジタル教科書、これが採用になって今現在ではありませんけれども、これはどういうものか。同じものがデジタル化されていく、つまり電子黒板があればそこへ教科書を単純に映すのではなくて、教科書を各先生方があらかじめ手が入られる、そういうデジタル教科書です。

実際、実は私現場でやっていたのですが、教科書をコピーしてそれをPDF化することによって電子教科書に変化できるのですね。この技術を中学校の先生方、獲得していただければ、平成32年より前からせつかく電子黒板が入るわけですから活用がしやすいと思います。

PDF化して活用するというのも一案だということ、こう思います。

**市長** 他に、何かございませうでしょうか。

全般を通じてご意見がございましたら、お願いいたします。

(「なし」の声あり)

---

### ◎その他

**市長** 教育委員会のほうで、何かその他ございませうか。

(「特段ございませう」の声あり)

**市長** 今日は、いずれにしても地域の皆さん方が開かれた学校ということで、学校と連携を深めるということは非常に大切なことだというふうには申し上げましたけれども、先生方の時間外勤務をなるべくなくして、そして部活動への支援、協力ができるかということが主な意見交換の内容でありました。若干ずれた面もあるかと思いますが、司会の立場で発言が多かったかもしれませんが、私の思い等も含めて意見を言わせていただきました。

いろいろな意見を踏まえてもらって、次の教育委員会定例会はいつでしたか。

(「8月21日です」の声あり)

**市長** 次の教育委員会の中で今日の議論も含めて、また教育委員会から提案された内容を再度ご検討いただいてきて事務局も今言った中でしっかり練っていただければと思いますが、よろしいですか。

私も教育は、全く素人でありまして司会もスムーズにはいきませんでした、思うところも少し発言させていただいたところがございます。

総合教育会議は年に2回ということですが、必要に応じて開催することができるのですよね。

(「はい」の声あり)

**市長** また必要ならば、先生方といろいろな意見交換をさせていただきたいというように考えますので、よろしく願い申し上げたいと思います。

私も、いつも部長会議等でも申し上げておりますけれども、私の発言が必ずしも正しいということでもございませぬし間違っているところ、あるいはちょっと時代ずれしているのではないかということについては職員の皆さんも含めて、それから先生方も含めて率直に指摘をしていただいたり、ディスカッションができればと、こんな思いがありますので是非市長が言ったからということではなく、遠慮なく指摘をしていただくところは指摘をしていただいてお互いに安曇野教育の発展のためにお力を賜りたいと思います。

予定の時間がまいりましたので、以上で第1回安曇野市総合教育会議は終了させていただきますと思います。

ご協力ありがとうございました。

---

## ◎閉 会

**教育部長** それでは、本日の会議事項は全て終了いたしましたので、これで閉会とさせていただきます。

どうも、ありがとうございました。